

平成 29 年度

宮田村教育委員会 12 月定例会々議録

1 開催日時：平成 29 年 12 月 21 日(木) 13：30～15：45

2 開催場所：村民会館 第 1 研修室

3 出席委員

- (1) 長嶋 良子 教育長（以下「教育長」と表記。）
- (2) 篠田 秀児 委員長職務代理者（以下「職務代理」と表記。）
- (3) 鷹野 綾子 委員（以下「鷹野委員」と表記。）
- (4) 伊藤 一幸 委員（以下「伊藤委員」と表記。）

4 欠席委員：古藤 祐巳子 委員

5 その他、会議に出席した者の氏名

- (1) 本田 秀樹 教育次長（以下「次長」と表記。）
- (2) 北原 敦 学校係長（以下「学校係長」と表記。）
- (3) 平澤 義章 子育て支援係長（以下「子育て係長」と表記。）
- (4) 本田 留美 生涯学習係長（以下「生涯係長」と表記。）

6 教育長あいさつ

教育長：就任以来多忙な日が続いているが、教育委員の皆さんに助けていただき、今年もあと一週間となった。資料を見ていただき、報告を挨拶と兼ねたい。

議会と今取り組んでいることについて。

12 月 8, 9 日の議会で特別支援教育についての質問が多く出された。インクルーシブ教育システムを推進し、特別支援学級であろうがなかろうが、その子の教育的ニーズを配慮できる力を職員皆に付けてほしいということを、校園長会でも伝えた。宮田小学校で文科省指定の発達障がい児への支援の研究指定校に選ばれ、今年から始めている。読み書きに困難を抱えるお子さんは高学年になって学習意欲が低下してくるので、早い時期に適切な読み書きの支援をしたいという特別支援学級の先生からも要望がある。それと併せて、西川先生の指導のもと継続してきた、友達同士が学習意欲を高めて互いを認め、その中で発達障害の子も学習意欲を高める学びあいも併せてやっていく。伊那市や駒ヶ根市で取り入れている MIM や漢字を覚える道村式漢字学習法が、全国的に広がっている。宮田村では道村先生に授業をしてもらい、漢字力がどれだけ上がっていくのかを検証している。特性のある子にとっては漢字学習を意味づけてやると面白くスッと入っていくようで、漢字の苦手感が取れたというお子さんもいる。外遊びが非常に減って見

え方にも支障が生じているので、目の眼球運動を併せてやっていく。さらに書くことが苦手、自分の思いを伝えることが苦手なお子さんのため、小学校では iPad を有効活用し研究を進め、保育園の先生にも見てもらい早期発見して共同で支援していく。

いじめや不登校はどこでも話題になっているが、中学校が素晴らしいマニュアルを作っているので、さらに事例に即したマニュアルをそれぞれの学校で作る。教育委員の皆さんには、いじめ等の緊急事案がある場合は総合教育委員会を開き、学校対応を一緒に考えていただきたい。

子どもたちの食生活について。宮田の場合 98% が朝食をとっているので心配ないと思うが、校長たちには個食などの状況等もしっかり観察するように言っている。子供カフェが県下でも少しずつ広がっている。子供カフェは一つの場所でいくつもの役割をこなす。村内でも村人テラスなどで実施する話をきく。

サイバー犯罪の取り組みについて。小学校では清水 PTA 会長の提案で保護者に家庭のルール決めをしっかりとやってもらうよう進めている。保護者が知らないうちに子どもが巻き込まれることがあるので、随時発信していきたい。

以前、小中一貫校が話題になったが、小中だけでなく保育園も含め保育園小中の連携校として、私は今考えている。特に保育園年長から小 1、小 6 から中 1、中 3 から高 1 の接続期を家庭と学校・保育園が連携し合って、進級した子供たちが安心して学校生活を送れるようにしていきたい。高校中退の状況について中学に確認したところ、宮田ではないということだった。卒業時には何か困ったら中学校の先生に相談に来てもいいし、今後一本化する子育て相談窓口相談してもいいと紹介する。メール配信もするので宮田の情報を知ってもらい、困ったときにどこへ行けばいいのかを周知していきたい。

成長ダイアリーについて。上伊那圏域で広げようときらりあ中心に作られたが、宮田は 4 件くらいしか活用していない。支援の継続として周知していきたい。

キャリア教育について。1/12 に開催したキャリア教育フォーラムは素晴らしかったので継続してほしいという意見があるが、一部の保護者と事業者にしき見られていないのではないかと反省もある。もっと多くの地域の方に知ってもらうため今後どうするか、それぞれの学校で決めていきたい

学校における働き方改革について。推進のための基本方針が県から来ており、全県一斉に取り組むことが 4 つある。

- ・時間外の一定時刻以降の電話には、留守番電話等での対応にする。
- ・長期休業期間においては、一定期間の学校閉庁日を設定する。
- ・長期休業期間中の働き方については、テレワークによる勤務などを実施する。
- ・月 2 回以上の「教職員定時退勤日」を実施する。

長期休業期間中の自宅勤務と月 2 回以上の定時退勤日はすでに日を決めて実行している。留守電と長期休業中の閉庁に関しては 1 月の校長会で詰めたい。

勤務時間について、管理職は ICT やタイムカードを用いて年間を通して職員の勤務時間を適正に把握しなければいけない。

伊藤委員：タイムカードは大した金額ではない。せめて年度末までに導入した方が良い

教育長：先生が元気でないと困るので、勤務時間が管理できるものをすぐにも導入したい。

7 会議録承認 11月定例会 (事前配布)

8 議 題

(1) 報 告

報告1号 教育委員会活動報告について 11～12月 (1ページ)

次 長：資料について説明

教育長：報告に関してよろしいですか。

委 員：了解

報告2号 12月議会報告について (2～16ページ)

教育長：24件もご質問いただいたが、それだけ学校教育をアピールできたので良かったと思う。

篠田委員：高速バス停留所の話はどうなったか。クマやサルが出る危険な所でもある。

次 長：照明も何もないということで環境整備も含めて何らかの対応をすべきという質問だった。何もないのでせめてタクシーの電話番号でも表示があればという話だった。

伊藤委員：駐車場も4台しか駐車できず、私は地区の要望に一带の整備をしてほしいと要望を出した。いろんなところから声を上げないと動かない。

教育長：議会に関してはよろしいですか。

委 員：了解。

報告3号 就学援助費の支給について (17ページ)

学校係長：資料について説明

新入学の児童学用品費の前倒し支給は全国的にも取り組みが開始され、40%以上の市町村で行われている。今回議員から要望があり、管内の市町村に確認した。伊那市、駒ヶ根市は取り組みを開始し、箕輪町、飯島町、中川村は宮田と同じ状況。内容は就学支援のうち新入学の準備に係るもので、小1は40,600円、中1は47,400円を前倒しで支給する。1月に臨時議会があれば上程したい。支給方法については新中1年生には通知を出す。新小1は保育園で周知して、来てもらったときに説明したいと思う。

鷹野委員：中学の制服のリユースについて、時期がずれていると聞いた。高い物なのでうまく回してあげると楽になるのではないか。

伊藤委員：卒業式の後でなくもう1年あけてやるくらい余裕がある方が良いのではないか。

学校係長：制服のリユースの時期、需要、また、かばんについても確認したい。

教育長：よろしいですか。

委 員：了解。

教育長：コミュニティースクール（CS）について小中の校長会で話をしたところ大賛成だった。

保育園は少し心配あるものの、環境整備を希望している。本来 CS は学校単位で校長が中心になって、地域の方にお願いしながら進めていくもの。宮田は小中一校なので保育園もまとめてボランティアの方を共有するのがいいと思う。

CS の第1の目的は、新しい指導要領でも言われているように、開かれた学校にすること。学校は閉鎖的で、地域の方の思いが学校になかなか伝わらないとの意見もある。CS によって地域の方々に、目指す子どもの姿や学校運営の方向を知っていただき、運営委員会で地域の意見を吸い上げ、地域や保護者の意見を学校運営に活かすことができる。

第2の目的は、子どもを地域全体で育てること。学校の方針を聞いたうえで協力しながら地域ができることを支援していただける。

第3の目的は、専門家の指導。技術や家庭科、英語など、地域の専門家に指導してもらえれば授業がスムーズに進められる。学校の先生にも得手不得手があるのでありがたい。遠足の引率や競歩大会の支援をしてもらうとより安全になる。草取りや雪かきなど環境整備も手伝ってくださるとありがたい。地域の方は子どもと接することで元気になり、自分の得意分野を教えることで自己肯定感を持てる。

第4の目的は、支援の継続。熱心な先生がいなくなると支援が継続されなくなる可能性があるが、CS の組織を作っておけば先生が異動しても率先して地域の方に支援いただける。村民の方々が宮田の子どもたちに声をかけ、子どもたちの自尊感情を育てていただくのが一番の願い。

進捗状況について。学校支援実行委員会は9年前に設立し年1回の会議で活動報告をしている。文科省が指定する CS 運営委員会にするため、年に2回実行委員会を開く。5月に校長、園長が、学校運営の方針と子どもたちの目指す姿を委員の皆さんに話す。それを受けて意見を出してもらい、学校で活かせるものは活かす。2月に学校の活動報告や次年度の取り組みを報告する。メンバーについて教育委員の皆さんの意見を聞きたい。

支援のうごきについて。これまで学校やコーディネーターそれぞれで受けていたが、窓口を1本化し、園・学校の要望を FAX でコーディネーターに連絡してもらう。教育委員会は名簿をもとに、引き受けてくれる人を園・学校に返信する。支援に入っていただく際はコーディネーターが出迎え、教室まで案内し活動を記録する。終わったら感想をいただき接待して見送る。

支援内容は資料のとおり、大きく分けて8つの活動がある。現在、月1回の土曜塾は児童館に移す予定。お茶やお花など長く続いているものは村民会館で引き続き行う。中学生の学習補充をする地域未来塾は年7回、子どもたちの希望を取って学校職員が進めている。今までの活動が多いが、部活支援と放課後学習支援が新たに入る。2月の委員会で承認を得てボランティアの募集をかけたい。現在登録されている中には高齢になられた方もあるので募集をかけなおし、新たな名簿を作る。学習支援は補助金が減らされる可能性があるが、これまで払っているところは払う。無料のところは、予算がないので今後も無料でや

らざるを得ない。心苦しいが、保険料くらいしか出せない。コーディネーターは支援の心得を作り、守秘義務や学校の授業の支援は先生の指導に合わせていただく等の注意事項を皆さんに説明したうえで入っていただく。

鷹野委員：現在、見守り隊の方はCSに入っているのか。

教 育 長：見守り隊もCSの組織に入っている。重複して支援して下さる方もいると思う。

伊藤委員：今までの組織を合体させるというなら、謝礼を出さないなら全員出さないようにしないと不公平感が出る。お金が絡むとややこしくなる。差があるのは変だと思う。

教 育 長：そこは頭が痛いところ。

学校係長：うめっこ塾は教育委員会の傘下で教育を受けさせるということで学校教育法が改正になり賃金を払っている。放課後子ども教室は学習支援等教育委員会の傘下で行うべきものかどうか教育委員会で審議し、学習支援として認めれば賃金を提供する。そこでボランティアとの区別はできるかと思う。

伊藤委員：資格が必要か必要でないかはどう考えるか。

教 育 長：英語は免許が必要と思う。基本的には担任のサポートなので、英語塾の先生なら大丈夫だと思う。家庭科や技術の場合は担任の授業の支援に入る。他の学校でも同様で、ボランティアが主体で教科はやらない。

伊藤委員：会社で海外経験のある人は多くいると思う。その人たちに手伝ってもらおうと思ったら資格はなくてもいいと言わなければいけない。お金の有料か無料かをはっきりさせた方がよい。そこを明確にする必要がある。

教 育 長：放課後学習支援、土曜塾、未来塾はボランティアではないので外した方がよい。学校、保育園長、教育委員・実行委員の皆さんの承諾を採り進めていきたい。伊藤委員から出された資格の有無、PTAの仕事の件など募集要項にしっかり明記し、お金や保険のこともご理解の上協力していただける方に申込みいただく。5月くらいから活動開始予定。

伊藤委員：こんな組織がしっかりしてくるとPTAが機能しなくなるのではないか。

教 育 長：PTAは環境整備をやってもらっている。他に必要があれば、PTAとCSの線引きを学校でやってこちらに要望を出してもらおう。よろしいでしょうか。

委 員：了解。

#### 報告5号 文化祭の反省について

(29 ページ)

生涯係長：11月5日に村の文化祭を開催し反省会も行った。昨年度と比較すると来場者数、作品数が若干減っている。反省会では、物産販売、会場案内図など工夫が必要という意見があった。カーペットの部屋は土足のまま入れる対策をし、表示して来場を促したい。大ホールの発表では、発表中に観客席にいた次の出演者が動いたことを詫げる話もあり、前列は出演者の席にするのはどうかという意見もあった。駐車場係の分館主事からは、案内したことでかえって危険な場面があり、お年寄り優先はしない方がよいという意見もあった。展示は一昨年まで体育センターで行っていたが、耐震工事の関係で展示会場を村民会館に移した。参加者にアンケートを取り、結果、村民会館で実施したが、展示する団体からは

文化行政推進のため展示スペースは広く取った方が良くという意見があった。今後は展示する団体の意見を聞き、多くの人に来てもらうよう進めていきたい。

鷹野委員：芸能発表で、他の団体が発表している最中に出ていったのはうちのグループで、注意した。観客席の前に待機場所を作ると、ますますガラガラになるので止めた方が良く。

生涯係長：今年の文化祭は、複数の地区で収穫祭と重なってしまった。

伊藤委員：地区の収穫祭の日程を動かしてもらうことはできないか

生涯係長：地区の方に変更してとはいえないので、物産展などで人数を増やす方向を考えたい。

教育長：検討していきたい。よろしいでしょうか。

委員：了解。

## 8 その他

### (1) 登戸研究所の調査について (30～31 ページ)

次長：資料について説明

これまで調査がなされてこなかった登戸研究所について、伊藤委員と赤尾氏より調査依頼書が出ている。議会に諮り了承を得て調査を始めたい。

伊藤委員：今、調査しないとみんな死んで、どうにもなくなる。実際には真慶寺周辺のおばあさんたちから聞き取りをして、残っているものを調査する。真慶寺とわが家は調べたが、他は分からないので調べていただきたい。

教育長：この件についてはよろしいでしょうか。

委員：了解。

### (2) 新年賀詞交換会について (32～33 ページ)

次長：今年から、一堂に会すれば一度で済むということで、賀詞交換会を試験的に開催する。

委員：了解。

### (3) 当面の日程について 12～1月 (34 ページ)

次長：資料について説明。

教育長：以上でよろしいでしょうか。

委員：了解。

教育長：本日はありがとうございました。